

# 吉浦地区まちづくり計画書

☆活気・潤い・安全なまち☆



平成21年3月

吉浦ふれあい事業推進委員会

## ごあいさつ

これまで「まちづくり」は、市や町など自治体主導で行ってまいりました。しかし、私たち住民の視点から、自分たちの住んでいる地域の課題や資源にはどのようなものがあるのか？今後どのような点を重視した「まちづくり」をして行けば住みよい町になるのか？そんな思いを胸にこの度委員会では、呉市の「ゆめづくり地域協働プログラム」を活用して、「吉浦ふれあい事業推進委員会 地域まちづくり計画」を策定いたしました。この計画には、これまでの活動の積み重ねや、住民の方に御参加いただいた「まちづくりワークショップ」での貴重な御意見やアイデアが取り入れられています。わが町「吉浦」が、お子さんからお年寄りまで全ての住民にとって、ふれあいを大切に活気・潤いにあふれ安全で住みよい町になるよう、一層の努力をして参ります。委員を始めとする住民の皆様及び、呉市の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

吉浦ふれあい事業推進委員会  
会長 岡本 節三



## 地区の概況

吉浦地区は昭和3年に呉市に編入された。東は川原石地区、西に天応地区、北は昭和地区と隣接し、南は瀬戸内海を隔てて江田島市を望む。東西に国道31号線やJR呉線が走り、これらによって町が南北に二分されている。また、吉浦駅前から南北の道路となる県道278号焼山吉浦線が、昭和地区に向けて延びており、この道路に沿って商店街が形成されている。

地区の平成20年3月末現在の人口は11,586人。世帯数は5,055世帯で、高齢化率は約27%に達しており、一人暮らしの高齢者も多い。

地区には、「海上保安大学校」や「海上自衛隊貯油所」といった国の機関、「狩留賀海浜公園」などがあるが、平坦地が少ない為、民家が山の中腹にまで軒を連ねている。中心部には「吉浦八幡神社」や「水龍」の酒蔵など、歴史のある建物も多く残されている一方で、沿岸部にはマンションやヨットハーバーなどの、近代的な建物や施設が見受けられる。

住民の多くは地縁団体である自治会に加入し、地域の活動に参加している。自治会は各種団体と連携をはかって、「かに祭り」の伝統を受け継ぎ、自治会ごとの山車や太鼓が祭りを盛り上げている。さらに、「町民体育祭」や春と秋の「文化祭」など、様々な地域行事について協力が行われている。

交通安全推進についても、「交通安全は家庭から」をスローガンに、明るく住みよい安全なまちづくりをめざして、交通安全街頭指導等行われている。

また、子どもの安全確保や地域防犯の高揚の為、各自治会に設置された自主防災会等により、地域の防犯パトロールを実施し、より安全なまちづくりの為に活動をしている。

さらに大規模な災害等に対応する為、全町を挙げて吉浦地区防災訓練を実施し、緊急時の地域連帯を図り、安心・安全なまちづくりを目指して活動が行われている。



## 現状と課題

現在、各世代を取り巻く環境は、少子高齢化を始め情報化社会の発展によって大きく変化し、地域社会において人間関係が希薄化し、必要以上の摩擦とコミュニケーションギャップが生じている。特にコミュニティでは、地域活動や祭事等、低迷化している所も見受けられる。今後、コミュニティを維持していく為にも、相互扶助と助け合いの精神がますます重要となってきた。

地区内の公共施設である「JR吉浦駅」が老朽化している為、駅舎を含めた周辺整備や、エレベーター設置等のバリアフリー化が要望されている。一部スロープ化や、段差解消のためのホームの嵩上げ工事は始まっている。駅舎周辺を含めた全体の改修へ向けて進んでいる。

また、公共によるサービスだけでは対応できない、インフォーマルなサービスの対応も求められている。そのような地域の課題解決を図る為に、NPO・ボランティア団体の得意分野に応じた活動が、積極的に展開されるとともに、活動をコーディネートできる人材の育成や資質向上、新たなボランティアの育成を図る必要がある。

近年、ますます発展する車社会は、便利で快適な反面、悲しい交通事故が絶えることなく発生し、いつ災害に巻き込まれないとも限らない。「旧軍需部踏切」では、国道31号線とJR呉線が近接しており見通しも悪く、安全対策を求める声も多い。さらに、地区内の道路が狭く離合しづらく、朝のラッシュ時は子ども達の登校とも重なる為、交通事故防止も課題となっている。こうした状況に対し、関係行政機関はもちろん、市民総ぐるみの交通安全推進体制の確立と積極的な活動なくしては、交通事故の防止は実現出来ない。

また、子どもたちを取り巻く環境もいじめ・引きこもり・不登校・家庭内暴力など、様々な問題が多発し、他人事ではなくなってきた。子どもたちの遊び場は、家の周辺から夜間のコンビニや公園などに移るにつれ、遊びに金銭が必要となり、遊びの持つ意味も変質してきている。親たちが安心して、子どもたちが安全に遊べる空間の創出や、防犯パトロールの必要性はますます高まっている。



## 将来像（まちづくりのキャッチフレーズ）

### ☆活気・潤い・安全なまち☆

委員会では、皆様からの御意見（課題）を集約し、議論を重ねた結果、まちづくりの将来像を☆活気・潤い・安全なまち☆としました。これを基礎に、歴史や伝統を大切に、活気と潤いにあふれた安全なまちづくりを、自治会連合会や社会福祉協議会等、地元の各種団体と連携しながら進めてまいります。



## 活動方針

課題を解決する為、3つの活動方針の下、まちづくりを進めてまいります。

### ○賑わいと活気のあるまちづくり。

伝統ある行事の発展や、他地区にはない国の施設との連携を通じて、活力あるまちづくりを進めます。

### ○安らぎと潤いのあるまちづくり。

郷土の歴史や史跡を大切に、文化行事等を通じて世代間交流を図り、潤いあふれるまちづくりを進めます。

### ○安心で安全なまちづくり。

防災訓練などにより地域の結束を高め、お子さんからお年寄りまで、安心して安全に暮らせるまちづくりを進めます。



## 事業計画

### ○賑わいと活気のあるまちづくり。

- ・「ふれあい盆踊りと土曜市」の開催  
(吉浦盆踊り保存会, 商店連盟ほか各種団体の協力の下, 模擬店・大抽選会などを行う。)
- ・「町民体育祭」や「マラソン大会」の実施  
(小さなお子さんから高齢者の方まで参加しやすい行事になるよう, 工夫を凝らして盛り上がりを図る)
- ・国の機関(施設)との地域交流事業の創出  
(海上保安大学校や海上自衛隊貯油所の地域住民への特別開放や地元行事への参加等交流を図る)
- ・駅前駐輪自転車(バイク)の整理活動  
(海田市でされているように, 利用料を徴収して整理が出来ないか, 併せて研究する)
- ・お好み焼き食べ歩きスタンプラリー  
(活性化の一例として, 地区内にある「お好み焼きマップ」を作製し, 食べ歩きをしてもらう)
- ・その他, 賑わいと活気のあるまちづくりに必要な事業を行う。



### ○安らぎと潤いのあるまちづくり。

- ・文化行事の創出  
(世代間交流を図る『ふれあいコンサート』『広響弦楽演奏会』等を行う)
- ・郷土の名所尋ね歩き会  
(史跡マップを使ってのハイキング, ボランティアによる案内や解説を行う)
- ・名所史跡案内板の設置  
(具体的な行き方や, 回るコース等を分かり易く標示する)
- ・遊歩道の整備  
(下草や道に張り出した樹木の伐採等を行い, 歩きやすくする)
- ・子育てサロンの開催

(子供たちや保護者の方と、手遊びや簡単な体操を一緒にしながら、交流を図り、楽しく子育てを行う)

- ・ 高齢者との交流活動や健康教室の開催

(いきいきサロン等開催し、高齢者の方にゲームやおしゃべりを楽しんでもらう事で、寝たきりや痴呆の予防を図る。また、健康教室を開催し、住民全体の健康増進を図る。)

- ・ 町内清掃活動への協力を行う。

(自治会等で積極的に行われているが、高齢化等で斜面地の除草作業等難しくなっている為、若い人の参加が増えるよう工夫する)

- ・ 地区内で、様々な活動をするボランティア等(団体・指導者)の育成を行い、活動や事業をサポートする。

- ・ その他、安らぎと潤いのあるまちづくりに必要な事業を行う。



## ○安心して安全なまちづくり。

- ・ 「地域防災訓練」の実施

(呉市消防局・呉市消防団・自治会が参加し、消火訓練や心肺蘇生、負傷者の移送などを行い、日赤奉仕団吉浦分団は、避難者への炊き出しを行う)

- ・ 高潮・台風・水害等の自然災害対策の実施

(護岸工事・ポンプ場建設など事業を継続し、災害対策に努める)

- ・ 交通安全街頭指導

(交通安全街頭指導を、横断歩道・交差点・通学路を重点的に実施する)

- ・ 防犯パトロールの実施

(子ども達の安全な登下校を見守り、積極的に声掛けを行う)

- ・ 防災マップの作成

(空き家や空き地の増加→危険箇所を地図上に記し、防災に役立てる)

- ・ 町内井戸マップの作製

(県の送水管崩落事故による断水、給水作業を踏まえ、使用できる井戸の確認や井戸掃除の一部補助等行う)

- ・ 子どもの居場所づくり

(商店街の空き店舗を活用する等して、安全な居場所づくりを検討する)

- ・ ゴミのないまちを作る  
（ゴミステーション周辺の清掃，町内の清掃等行う）
- ・ その他，安心して安全なまちづくりに必要な事業を行う。

今後，この事業計画を基に吉浦のまちづくりを進めて参ります。  
皆様の御協力を重ねてお願い申し上げます。

## まちづくり計画の経緯（参考）

平成20年10月 9日（木）広島国際大学の協力を得て「まち歩き」を行い，自分達の住んでいる町「吉浦」を知る（狭い路地も歩く事で普段，気が付かない事に気付く）

平成20年10月25日（土）第1回ワークショップ開催  
～地域の資源や魅力・課題や問題点を出し合う。（良いところはどこか？逆に困っている事はないか？皆で意見を出す）

平成20年11月12日（水）第1回ワークショップ成果取りまとめ，参加者への送付

平成20年11月22日（土）第2回ワークショップ開催  
～前回の結果を基に，これからの吉浦地区を考える。  
（どうすれば「吉浦」が元気で住みよい町になるのか？自分達で何か出来る事はないか？）

平成21年 3月23日（月）役員会を開催し，計画案の検討を行う

平成21年 3月27日（金）これまでの経緯を「吉浦ふれあい事業推進委員会」で報告し，まちづくり計画書を作成する。

